

別記様式第2号

会議の概要報告

会議の名称	佐野市子ども・子育て会議
1 開催日時	令和3年7月28日(水) 13時30分～15時30分
2 開催場所	市役所1階 市民活動スペース AB
3 委員等の人数	19人
4 出席委員等の人数	14人
5 議題	<ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長の選出について【資料1】 ・「第2期佐野市子ども・子育て支援事業計画」における令和2年度の計画の達成状況の点検及び評価について【資料2】
6 会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0人
8 会議資料の名称	<資料1> 佐野市子ども・子育て会議条例及び規則及び子ども・子育て会議委員名簿 <資料2> 令和2年度第2期佐野市子ども・子育て支援事業計画の実績報告における点検・評価結果 <資料3> 保育施設及び放課後児童クラブにおける施設入所状況について <資料4> 佐野市立ときわ保育園の閉園について
9 会議の概要(発言の要旨)	①会長・副会長の選出について 会長に小林研介氏、副会長に長谷川一宏氏が選出された。 ②「第2期佐野市子ども・子育て支援事業計画」における令和2年度の計画の達成状況の点検及び評価について 事業ごとに達成状況を評価した。 (意見) P5 (1) 利用者支援事業(基本型)と(2)利用者支援事業(母子保健型)の実際の利用者数について(小早川委員)

(回答) (1) 利用者支援事業(基本型)の相談件数は、来所 11 件、電話連絡 31 件の合計 41 件でした。(保育課)

(2) 利用者支援事業(母子保健型)の妊娠届出時の利用は 714 名、妊娠 28 週の電話連絡等状況確認数は対象者数 478 人のうち実施 305 名、その他の電話相談は 1468 件でした。(健康増進課)

(意見) P7 3 放課後児童健全育成事業について、令和 2 年度の量の見込みは 1,973 人、確保方策は 1,851 人、計画の進捗状況は 1,809 人、実際の利用状況は 1,672 人となっている。実際の利用に対して、計画の進捗状況が十分に満たしているようであるが、この数字の考え方については(小早川委員)

(回答) 計画の進捗状況については、各学校区のニーズ量に対して供給できる施設の枠を示している。実際の利用状況においては、一部の学校区で供給を超過する入所希望があるので、入所制限を行っている事情がある。したがって、実際の利用状況の数値は、表面上よりも潜在的に多く、入所希望数は量の見込みの数値に近くなると考えられる。(こども課)

(意見) P9 5 乳児家庭全戸訪問事業等で計画の進捗状況が「実績通り」という記載になっているが、他の事業では数値が入っているのに、どうしてこのような書き方か(小早川委員)

(回答) 確保方策の達成方法が、数字によるものではなく、乳児家庭全戸訪問事業を行うための体制を整えること、となるため。(健康増進課)

(意見) P10 7 地域子育て支援拠点事業で量の見込み等と実際の利用状況の単位が違うのでどのように比較するか(小早川委員)

(回答) 量の見込みは、2,879 人回/月となっているが、実際の利用は 12 ヶ月分をかけて 34,548 人回の利用となる。県への報告の都合で単位が違う。(保育課)

(意見) P10 7 地域子育て支援拠点事業で実際の利用状況は人回ではなく、人回/年とした方が理解しやすい(小早川委員)

(意見) P8 (2) 夜間養護等(トワイライト)事業や P12 9 病児保育事業において、事業の利用者がいなくて見直しをしますとあるが、廃止ではなくて新しいやり方を検討するということか(奥村委員)

(回答) P8 (2) 夜間養護等(トワイライト)事業については、コロナ禍ということもあり、人員不足で市内の乳児院で夜間の受入れをすることが難しい状況にある。

またショートステイ等は利用者が送迎をすることが原則となっており、施設での送迎も対応できない。足利市や野木町に受け入れ施設があるが、例えば急な残業で保護者が子どもをみることができないときに利用したくても、保護者が送迎をしなくてはならない。

そういった現状があるため、夜間に送迎するトワイライトステイよりも、宿泊での施設利用であるショートステイを薦めることを考えている。(家庭児童相談課)

(回答) P12 9 病児保育事業、施設が休止しており委託ができていない状況である。この事業の実施には小児科の医師の協力が必要であることから、今後、医師会に協力していただけるかどうかで方向性を見直していく。(保育課)

(意見) P6 2 時間外保育事業について、実績報告にかかる補足説明で、公立保育園は 3 園のみ実施したと記載があるが、対応していない保育園の保護者は時間外保育を受けられないのか。(橋本委員)

(回答) 実績にかかる補足説明での 14 園は朝 7 時半から夜 7 時半まで 11 時間を超えて開園している園である。その他の園では朝 7 時半から夜 6 時半までの 11 時間開園しており、保護者の就労状況でその時間帯で送迎ができる方が入園の対象者となる。(保育課)

(意見) 使いたいのに使えない状況があるのなら改善してほしい。(橋本委員)

(意見) P10 (2) 子どもを守る地域ネットワーク期の機能強化事業について、家庭相談員 2 名というのは昨今の虐待等の状況を鑑みるに少ないと思うが増員する考えはあるか(奥村委員)

(回答) 令和 2 年度までは家庭相談員が 2 名ということで、時間外業務が多くなり代休も取りにくい状況にあった。ひとつの家庭には数年にわたり継続して寄り添ってい

	<p>くこともある。令和3年度から子ども家庭総合支援拠点を設置し保健師が1名増員された。婦人相談員にも兼務してもらっている。人口比として3名必要となるため、増員された経緯がある。(家庭児童相談課)</p> <p>(意見) 家庭相談員は10名いてもいいと考えている。毎年見直しをして、人口比ではなく実際に何人必要なのか協議して、相談員の疲弊度を軽減するようなことをしてほしい。(奥村委員)</p> <p>(意見) P3 基本目標1について少子化が進行しているので、今後の施設整備の規模については定員を少なめにして需給バランスを整える必要があるが、どう考えているか。(中山委員)</p> <p>(回答) 次第におけるその他のときわ保育園の閉園についても利用定員の調整を図る予定であると説明するが、赤坂保育園は90名定員のところ80名定員として変更した。大橋保育園は120名定員のところ、90名定員に変更した。保育所整備計画のなかでは、伊勢山保育園についても需給バランスにより他の用途への転換や閉園を考えている。(保育課)</p> <p>(意見) 保育園の定員を減らすことはわかったが、今後の整備計画を考えるうえでは、直近の出生数などの推移を注視しながら大きな視点で物事を考え、説明してもらいたい。(小早川委員)</p> <p>(回答) 令和2年度の出生数は624名となる。このあと説明する予定だが、資料4、5市内保育施設の利用状況では、公立保育園の入所率は75.9%、市内保育施設は82.5%となっている。このような状況もあり、ときわ保育園については、保育需給のバランスにより閉園を予定しており、さきほども伝えた伊勢山保育園についても閉園検討することとしている。(保育課)</p>
10 その他	<p>①保育施設及び放課後児童クラブにおける施設入所状況について【資料3】</p> <p>②佐野市ときわ保育園の閉園について【資料4】</p>